



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月13日

上場会社名 クオリップス株式会社 上場取引所 東
コード番号 4894 URL http://cuorips.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 草薙 尊之
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 井上 学 TEL 03-6231-0043
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
四半期決算説明会開催の有無: 有 (当社ホームページにて決算説明動画を配信予定)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	15	-	△461	-	△500	-	△503	-
2023年3月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 △503百万円 (-%) 2023年3月期第3四半期 -百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	△70.15	-
2023年3月期第3四半期	-	-

(注) 1. 2024年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率、2023年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	6,233	6,040	96.8
2023年3月期	-	-	-

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 6,031百万円 2023年3月期 -百万円

(注) 2024年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年3月期の連結財政状態については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	00.00	-	00.00	00.00
2024年3月期	-	00.00	-	-	-
2024年3月期 (予想)	-	-	-	00.00	00.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23	-	△753	-	△792	-	△796	-	△108.19

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 有

2. 2024年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しており

ません。

3. 連結業績予想については、本日（2024年2月13日）公表いたしました「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無
④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	7,898,116株	2023年3月期	5,676,366株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	15,707株	2023年3月期	15,664株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	7,183,247株	2023年3月期3Q	一株

（注）2023年3月期第3四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、2023年3月期第3四半期の期中平均株式数については記載していません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算説明会について）

当社は、四半期決算説明会に代えて、2024年2月14日に四半期決算説明動画を当社ホームページにて配信予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較分析は行っていません。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、景気の持ち直しがみられました。しかしながら、国内の物価上昇の他に、各国の金融政策の引き締めによる景気後退懸念や為替相場の急激な変動等もあり、依然として当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続いております。

PJ1 ヒトiPS細胞由来心筋細胞シート (対象疾患：虚血性心疾患 (国内))

当社は、虚血性心疾患 (ICM) による重症心不全を適応症とするヒトiPS細胞由来心筋細胞シートの製造販売承認の取得に向け、国立大学法人大阪大学 (以下、大阪大学) が実施する医師主導治験を支援しております。当医師主導治験は、予定していた8症例の被験者に対する移植が2023年3月に完了しております。

当第3四半期連結累計期間においては、26週の有効性評価と52週までの安全性評価を実施しています。また、当社は早期の製造販売承認申請を最優先事項として位置付けた上で経営資源を集中し、申請業務に対応しております。

上述のとおり、8症例の被験者に対して移植したヒトiPS細胞由来心筋細胞シートの有効性や安全性を評価している段階にありますが、2023年9月に大阪大学の研究グループが当医師主導治験の前半部分であるコホートA (3症例) の被験者に対する解析結果をまとめた論文を公表しています。論文では、ヒトiPS細胞由来心筋細胞シートの移植から1年間の観察期間後に、心機能の変化、心臓の血流、心不全の病状及び免疫反応等を解析した結果、治療効果及び免疫反応との関連性に関しては症例数を増やす必要があるものの、副作用、病状の悪化等については観察されず、治験製品に関連する重篤な有害事象は無かったと結論付けています。また、心機能の改善が観察されたことを示唆しています。(https://www.frontiersin.org/articles/10.3389/fcvm.2023.1182209/full)

PJ2 ヒトiPS細胞由来心筋細胞シート (対象疾患：拡張型心疾患 (国内))

PJ1 虚血性心疾患 (ICM) の他に、大阪大学はヒトiPS細胞由来心筋細胞シートに拡張型心疾患 (DCM) を効能追加するための研究開発を進めています。拡張型心疾患 (DCM) の研究開発は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の令和5年度「再生医療等実用化研究事業」として採択されています (公募課題「拡張型心筋症に対するヒト (同種) iPS細胞由来心筋細胞シートを用いた臨床試験」)。

当第3四半期連結累計期間においては、2024年1月～3月の医師主導治験開始に向け、インフルエンザウイルス・新型コロナウイルス等の感染症による影響を慎重に見極めながら、被験者のリクルートを進めています。また、当社は分担機関として、その一部の研究開発の再委託を大阪大学から受けており、大阪大学が進める臨床試験の支援を行っております。

PJ3 ヒトiPS細胞由来心筋細胞シート (対象疾患：虚血性心疾患 (海外))

ヒトiPS細胞由来心筋細胞シートについては、日本だけでなく海外でも製造販売承認の取得を目指し、かねてより米国拠点の確保を進めておりました。

当第3四半期連結累計期間において、経済産業省が米国・シリコンバレーにビジネス拠点を開設し、入居企業の募集を行っていたため、当社は当該募集に応募した結果、入居企業として選定されました。経済産業省によれば、当拠点は海外展開を目指す日本のスタートアップ企業を産学官で連携して支援するために設立した施設であり、日本政府として米国での事業創出・拡大に取り組むスタートアップ企業を強力にサポートし、事業成長を後押しすると述べています。

その他には、現地研究機関と研究開発計画を協議しており、体制整備を進めております。

PJ4 カテーテル

カテーテルによる新たな血管内アプローチでヒトiPS細胞由来心筋細胞を心臓へ移植する治療技術について、朝日インテック株式会社 (本社：愛知県瀬戸市) と共同研究開発を進めております。循環器内科医が急性心筋梗塞 (AMI) (※1)、慢性完全閉塞性病変 (CTO) (※2) 等の経皮的冠動脈インターベンション (PCI) (※3) 時に、開胸を行うことなく心機能の回復を高めるための治療技術の開発を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、朝日インテック株式会社との共同研究開発では、カテーテル及び投与する細胞の研究開発が順調に進捗していることを受け、今後も両社間でより緊密に研究開発を行うこと、日本及び米国での事業化検討を推進すること、さらには心臓以外の他臓器治療への応用を議論すること等について朝日インテッ

ク株式会社と追加合意に至っております。

(※1) 急性心筋梗塞 (AMI) : 心臓の血管が詰まり血流が止まることで、心筋に酸素と栄養が十分に供給されず、心筋が壊死した状態となる病気。体内に酸素等が十分に供給されなくなることで、致命的な状態となる可能性がある。Acute myocardial infarctionの略。

(※2) 慢性完全閉塞性病変 (CTO) : 心臓の冠動脈が3か月以上にわたり完全に閉塞し、血流が止まっている状態。Chronic Total Occlusionの略。

(※3) 経皮的冠動脈インターベンション (PCI) : 虚血性心疾患に対して、冠動脈内腔の狭窄部分にカテーテルを使用して拡張する治療法。Percutaneous Coronary Interventionの略。

PJ5 体内再生因子誘導剤

オキシム誘導体 (YS-1301) の低用量使用により体内再生因子 (HGF、VEGF、SDF-1、HMGB1等) が誘導される薬理作用に基づき、細胞保護、抗線維化、抗炎症作用による血管新生、組織再生が期待されます。肝硬変・非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) (※4)、閉塞性動脈硬化症 (ASO) (※5)、慢性腎不全 (CKD) (※6)、慢性閉塞性肺疾患

(COPD) (※7) 等への治療薬としての研究開発を行っております。小野薬品工業株式会社及び株式会社カルディオより物質特許・ノウハウ等の承継を完了しており、対象疾患の薬効メカニズム検証・製剤開発を進めております。

当第3四半期連結累計期間においては、製造の工業化へ向けた合成法の開発にめどが立ち、大阪大学との探索研究を進めている他、国立大学法人新潟大学との間で肝硬変・非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 等の肝疾患モデル動物を対象に、炎症及び線維化の抑制、肝機能改善等の効果を確認するための共同研究を進めております。

(※4) 肝硬変・非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) : 非アルコール性脂肪性疾患の一部。脂肪変性、炎症、肝細胞障害等を伴う。病状が進行した場合、肝硬変や肝臓がんにもつながる。Nonalcoholic Steatohepatitisの略。

(※5) 閉塞性動脈硬化症 (ASO) : 手足の血管動脈の硬化が進行し、狭窄や閉塞が発生することにより、血流が悪化する病気。手足に酸素、栄養分の供給が不足することとなり、冷感、しびれ感、間歇性跛行 (歩行中の足の痛み)、疼痛、潰瘍、壊疽等の症状が発生し、症状が進行した場合には、手足の切断に至る場合もある。

Arteriosclerosis Obliteransの略。

(※6) 慢性腎不全 (CKD) : 腎臓の機能が低下し、老廃物を十分に排泄できなくなった状態。病状が進行した場合、定期的な透析や腎臓移植が必要となる。Chronic Kidney Diseaseの略。

(※7) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) : タバコ等の有害物質を長期吸引することで発症する病気。以下のような症状を伴う。①気管支に炎症がおき咳や痰が出る、気管支が細くなることによって空気の流れが低下する。②気管支の奥にあるぶどうの房状の肺胞が破壊され、酸素の取り込みや二酸化炭素を排出する機能が低下する。Chronic Obstructive Pulmonary Diseaseの略。

培養上清

細胞培養時の廃棄物を削減し、安定した収益獲得を目的に、廃棄物の一部となっていた培養上清液の販売等を行う子会社を設立いたしました。

細胞培養後の培養液には、セクレトームと呼ばれる様々な成長因子 (サイトカイン等) や細胞外小胞 (エクソソーム等) が含まれており、培養液から老廃物を除去した上で有効活用することを検討しております。セクレトームの期待される効果は、しみ・しわ・美白等の肌環境の改善、発毛・育毛、体内免疫の活性化、創傷治癒等が考えられます。

売上高については、製造開発受託サービス (CDMOサービス) に係る売上を計上いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高15,098千円、営業損失461,297千円、経常損失500,601千円、親会社株主に帰属する四半期純損失503,959千円となりました。

当第3四半期連結累計期間において発生した研究開発費 (総額) は578,056千円でありましたが、当社は共同研究開発のパートナー企業から共同研究開発費 (以下、共同研究開発費受入額) を受領しており、共同研究開発費受入額を控除した金額172,605千円を販売費及び一般管理費において研究開発費として計上しております。

なお、当社は、再生医療等製品事業のみの単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、5,667,221千円となりました。主な内訳は、現金及び預金5,613,767千円、有価証券19,663千円であり、有価証券は米ドル建てMMFであります。固定資産の残高は、565,887千円となりました。主な内訳は、有形固定資産517,370千円であります。

この結果、総資産は、6,233,108千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、157,801千円となりました。これは主に、未払金70,769千円、預り金52,773千円であります。固定負債の残高は、35,025千円となりました。

この結果、負債合計は、192,826千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の残高は、6,040,281千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結決算開始に伴い、2024年3月期の連結業績予想を公表いたしました。詳細につきましては、本日（2024年2月13日）公表いたしました「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	5,613,767
売掛金	94
有価証券	19,663
棚卸資産	4,082
その他	29,611
流動資産合計	5,667,221
固定資産	
有形固定資産	517,370
無形固定資産	6,939
投資その他の資産	41,577
固定資産合計	565,887
資産合計	6,233,108
負債の部	
流動負債	
未払法人税等	34,257
未払金	70,769
預り金	52,773
流動負債合計	157,801
固定負債	
資産除去債務	28,419
繰延税金負債	6,605
固定負債合計	35,025
負債合計	192,826
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,559,015
資本剰余金	6,457,760
利益剰余金	△1,973,914
自己株式	△11,836
株主資本合計	6,031,024
新株予約権	9,256
純資産合計	6,040,281
負債純資産合計	6,233,108

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	15,098
売上原価	10,383
売上総利益	4,715
販売費及び一般管理費	466,012
営業損失(△)	△461,297
営業外収益	
受取利息	19
その他	47
営業外収益合計	67
営業外費用	
株式交付費	19,474
上場関連費用	18,550
その他	1,347
営業外費用合計	39,371
経常損失(△)	△500,601
特別利益	
新株予約権戻入益	1,105
特別利益合計	1,105
特別損失	
固定資産除却損	3,129
特別損失合計	3,129
税金等調整前四半期純損失(△)	△502,625
法人税等合計	1,334
四半期純損失(△)	△503,959
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△503,959

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純損失 (△)	△503,959
四半期包括利益	△503,959
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△503,959

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2023年6月27日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。上場にあたり、2023年6月26日を払込期日とする公募による新株式の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,219,920千円増加しております。2023年7月25日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資による新株式の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ210,830千円増加しております。

また、当社が2021年10月11日に発行した第1回新株予約権及び2022年8月12日に発行した第3回新株予約権の一部について権利行使されたことにより、資本金及び資本準備金がそれぞれ118,264千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,559,015千円、資本剰余金が6,457,760千円となっております。